

プラント状況確認結果(令和4年3月23日～令和4年3月29日)

令和4年3月30日
福島県原子力安全対策課

令和4年3月23日～令和4年3月29日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

プラント状況(3月29日午前11時)

以下の項目について、実施計画*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら([県HP](#))を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	5.5	1.6	1.7	—
		圧力容器 底部温度(°C)	13.8	21.6	20.3	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm ³)	1.08×10 ⁻³	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.11	0.14	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	21.9	21.3	— ^{※4}	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

※3 作業に伴い原子炉注水量を変更しています。安全性に影響はありません。

※4 全燃料取り出し完了により、計測不要です。

(1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(3月29日午前10時)

最小 0.345(MP-6)～最大 1.046(MP-4) μSv/h ⇒ [計測地点の地図](#)

(2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(3月28日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約0.58 Bq/L(港湾口)

～最大 2.5 Bq/L(遮水壁前)

⇒ [計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(3月28日採取分)

5、6号機放水口北側：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.65 Bq/L

南放水口付近：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.71 Bq/L

⇒ [計測地点の地図](#)

(4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しております。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら([東京電力HP](#))を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(3月25日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 6.5Bq/L (4号機)
～ 最大 5100 Bq/L (2号機)

トラブルの概要 (令和4年3月23日～令和4年3月29日)

この一週間におけるトラブル等について、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

■ 3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震後の状況について

午後11時36分頃、福島県沖を震源とする地震(マグニチュード7.3)が発生しました。

(双葉町:震度6弱、大熊町:震度6弱、楢葉町:震度6弱、富岡町:震度6弱)
地震後の状況については添付をご確認ください。

■ 3月25日に発生した福島県沖を震源とする地震後の状況について

本日午後0時08分頃、福島県沖を震源とする地震が発生しました。

発電所周辺町での最大震度は4でした。(気象庁発表)

地震後の状況については添付をご確認ください。

■ 4号機カバ一建屋西側扉付近からの水の漏えいについて

3月25日午後5時42分頃、4号機カバ一建屋西側扉付近から水が漏えいしていることを、パトロール中の協力企業作業員が発見しました。

状況は以下のとおりです。

- | | |
|--------------|---------------|
| ・ 発見時刻 | 午後5時42分頃 |
| ・ 発生場所(設備名称) | 4号機カバ一建屋西側扉付近 |
| ・ 漏えい箇所 | 確認中 |
| ・ 発見者 | 協力企業作業員 |
| ・ 漏えい範囲 | 約5m×1m |
| ・ 拡大防止処置 | 確認中 |
| ・ 漏えい継続の有無 | 扉付近より継続中 |
| ・ 外部への影響 | 確認中 |

現場確認の結果、当該水漏れ箇所へは継続して流れ込みが無いこと、付近に汚染水配管がないことを確認しました。また、水溜まり箇所のスミヤ測定を行った結果、230cpmでありバックグラウンドと同等であったことを午後7時4分に確認しました。

以上のことから午後7時6分に当該水溜まりは雨水であると判断しました。

なお、水溜まりが確認された箇所の近傍は雨水が溜まりやすいことから、溜まっていた雨水が流れ込んだものと判断しております。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) ご覧ください。

* 実施計画及び監視項目に関する解説

○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm³以下であることが定められています。

○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）

地震発生後の福島第一原子力発電所の状況

日付	公表内容
3月24日	<p>2022年3月16日午後11時36分頃に発生した福島県沖を震源とする地震に関する続報です。</p> <p>福島第一原子力発電所の状況は以下の通りです。</p> <p>5号機原子炉建屋空調設備については、3月17日午前4時55分に空調隔離弁が全閉し、自動停止していることを確認しておりましたが、本日、空調隔離弁を全開にしたことから、午後3時35分に原子炉建屋空調設備の運転を再開しました。</p>
3月25日	<p>本日午後0時08分頃、福島県沖を震源とする地震が発生しました。</p> <p>発電所周辺町での最大震度は4でした。（気象庁発表）</p> <p>福島第一原子力発電所内で観測された地震加速度の最大値は、6号機原子炉建屋基礎マットにおいて、水平：16.9ガル、垂直：12.6ガルでした。</p> <p>福島第一原子力発電所の現在のプラント状況は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6号機設備プラントパラメータ 異常なし ・滞留水移送設備・水処理設備パラメータ 異常なし ・原子炉注水設備（1～3号機） 異常なし ・使用済燃料プール冷却設備（1，2，5，6号機、共用プール）異常なし <p>※3，4号機は地震前から停止中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポスト指示値 有意な変動なし ・発電所敷地境界・構内ダストモニタ指示値 有意な変動なし ・構内線量表示器指示値 有意な変動なし ・構内排水路モニタ、海水放射線モニタ指示値 有意な変動なし <p>現在区分Ⅱのパトロールを実施中です。当社社員が現場状況を確認しており、状況が分かり次第お知らせいたします。</p> <p>福島第二原子力発電所は現在のところ、モニタリングポスト指示値の有意な変動は確認されておらず、外部への放射能の影響は確認されていません。</p> <p>福島第二原子力発電所内で観測された地震加速度の最大値は、水平：14.2ガル、垂直：14.1ガルでした。</p>

福島第二原子力発電所の状況は以下の通りです。

3月16日に発生した地震の影響により生じた1号機原子炉建屋6階南西コーナーのブローアウトパネルについては、目視による確認の結果、隙間の拡大やその他の異常は確認されませんでした。

現場確認により1～4号機使用済燃料プールからの溢水、漏えいのないことを確認しました。

午後2時01分 地震後のパトロール終了しました。

使用済燃料の冷温冷却、発電所の運営に影響を及ぼす設備トラブルや警報の発生はありませんでした。

この地震による社員、協力企業作業員にケガ人の発生はありません。

福島第一原子力発電所の状況は以下の通りです。

地震後に実施していた区分Ⅱのパトロールが午後2時44分に完了し、設備に異常がないことを確認いたしました。

この地震による社員、協力企業作業員にケガ人の発生はありません。